

1 月 2022

キリスト教牧師に有罪判決(5)

4. ケシャブ牧師訴追批判

ケシャブ・アチャルヤ牧師の逮捕・訴追については、ネパール内外のキリスト教関係諸機関が厳しい批判を繰り広げてきたことはいまでもない。たとえば――

▼宗教の自由国際ラウンドテーブル(IRFR)公開書簡(2021年7月19日付)

「[当局の行為は]ネパール憲法の保障する法の支配を無視し、言論信仰の自由を不法に制限するものだ。このままであれば、アチャルヤ牧師の逮捕・再逮捕が悪しき前例となって、憲法26(1)条の定める安全保障がさらに掘り崩され、キリスト教徒や他の少数派諸宗教の人々は、自分たちの宗教信仰の自由を制限され、信仰の大原則を単に表明することさえ困難になってしまうだろう。」(*8)

▼メルヴィン・トマス(Christian Solidarity Worldwide 代表)

「ケシャブ牧師への嫌疑には全く根拠がない。彼の扱いは、正義に反する重大な過ちである。……ネパールには、宗教信仰の自由への権利の保護促進を図っている国際社会の努力を尊重していただきたい。」(*8)

▼タンカ・スベディ(Religious Liberty Forum Nepal 議長)

「アチャルヤ裁判では、民主的世俗的ネパール憲法のもとでの最初の判決が下された。その判決は、ネパール憲法の精神を掘り崩すものであり、不当である。言論の自由や信仰告白の自由を台無しにし、少数派を抑圧するものだ。」(*14)

▼B.P.カナル(Nepal for the International Panel of Parliamentarians for Freedom of Religion or Belief ネパール代表)

「アチャルヤ逮捕の経緯だけをみても、その逮捕が不当なもので、キリスト教に対する計画的な行為であったことは明らかである。」(*14)

ここでB.P.カナルが指摘しているように、ケシャブ・アチャルヤ牧師の逮捕・訴追は、おそらく「計画的な(pre-planned)」権力行使であろう。妻ジュヌ牧師もこう指摘している。

▼ジュヌ・アチャルヤ牧師

「ケシャブ牧師の逮捕・有罪判決は、キリスト教社会全体に対する警告です。彼らは、ケシャブを処罰すれば、その有罪判決を見てキリスト教徒たちが学ぶだろう、と考えています。」(*14)

5. 宗教と構造的暴力

ケシャブ牧師の逮捕・訴追につき、キリスト教会側が、内外声をそろえて、信仰の自由への権利を根拠に、ネパール政府当局を厳しく批判するのは、もつともである。信仰の自由は、もつとも重要な万人に保障されるべき基本的人権の一つである。

が、一方、その信仰の自由といえども、社会の中で行使されるのであり、社会の在り方と無関係ではありえない。

とりわけネパールのように、世界的にはむろんのこと、国内社会に限定しても、経済、教育、健康など多くの領域において構造的暴力の犠牲になっている人々がまだまだ多い場合には、たとえ信仰の自由といえども、その現状を十分踏まえ行使されなければならない。

たとえば、次のような報告。善意に疑いはないが、非キリスト教徒のネパールの人々がこれを読んだら、どう感じるか？ いわずもがな、であろう。

「世界クリスチャンデータベースの数字によると、ネパールは世界で最もキリスト教人口が増加している国の一つだ。……

改宗は違法のままだが、ほとんど実効性はない。キリスト教団体は社会的支援などのために入国し、その多くは活動とともに福音を伝えた。……

C4Cの提携宣教団体『救い主だけがアジアの人々を贖う(SARA)』のテジュ・ロッカ牧師は、『彼らは病気の人や壊れた家族を見つけては話し掛けて祈りました。すると奇跡的にその人たちが確信を持ち、キリストに従い始めたのです』と述べた。『彼らは人々に、幾らかの食料と衣服を寄付しました。そのため、人々は彼らに耳を傾け始めたのです』(*3)

【参照1】

*3 なぜネパールには、世界で最も急成長している教会があるのか, christiantoday.co.jp, 翻訳:木下優紀, 2016/02/09

<https://www.christiantoday.co.jp/articles/19022/20160209/nepal.htm>

*8 Religious freedom groups call for dropping of charges against pastor in Nepal, LiCAS, 2020/07/28

<https://www.licas.news/2020/07/28/religious-freedom-groups-call-for-dropping-of-charges-against-pastor-in-nepal/>

*14 Pastor in Nepal Sentenced to Prison under Proselytism Law, Morning Star News, 2021/12/28

<https://www.licas.news/2020/07/28/religious-freedom-groups-call-for-dropping-of-charges-against-pastor-in-nepal/>

【参照2(2022/01/28 追加)】

「それでも、明治政府が天皇を「万世一系」「神聖不可侵」と定義したことには歴史的必然性があることは僕も認めます。幕末にアジア諸国を次々と植民地化してきた欧米帝国主義列強の圧倒的な経済力・軍事力の背景には白人種を人類の頂点とみなすキリスト教的コスモロジーがありました。だから、日本が列強に対抗するには、黒船だけではなくキリスト教にも対抗しなければならなかった。……僕は神仏分離による日本の伝統的な宗教文化の破壊を悲しむものですが、それでも、「一神教文化に対抗する霊的な物語を創造しないと列強に対抗できない」という政治判断自体にはそれなりの合理性があったと思います。」[内田樹「天皇制についてのインタビュー」『月刊日本』2022年2月号](#)

Written by Tanigawa [編集](#)

2022/01/15 at 17:58

カテゴリー: [ネパール](#), [宗教](#), [憲法](#), [文化](#), [人権](#)

Tagged with [キリスト教](#), [天皇制](#), [宣教](#), [援助](#), [改宗](#), [教会](#), [構造的暴力](#), [一神教](#)

キリスト教牧師に有罪判決(4)

3. 事件の経過:2020年3月~2021年12月

ケシャブ牧師は、2020年3月の最初の逮捕から現在まで2年近くにわたり裁判を闘ってきた。その経過の概要は、以下の通り。

2020年3月23日

ポカラのカスキ郡警察が3月23日、コロナに関するデマ(虚偽情報)拡散の容疑でケシャブ牧師を逮捕(1回目)。根拠法は報じられていないが、刑法の虚偽情報拡散禁止(84条)などの規定に依拠しているものと思われる。

警察によれば、ケシャブ牧師は、2月22日にユーチューブに投稿し、そこで、神にお祈りすれば、コロナは治る、神がコロナを死滅させてくれる、と説教したという。

牧師自身は、この2月22日のユーチューブ投稿それ自体は全面的に否定しているが、同趣旨に近い発言であれば、牧師は繰り返し行っている。たとえば—

「コロナよ、退散し死滅せよ。主イエスの御力で、お前らの行いがすべて根絶されんことを。主イエス・キリストの御名により、汝、コロナよ、お前を叱責する。その創造の御力、その統治者によりて、汝を叱責する……。主イエス・キリストの御名により、その御力で、コロナよ、立ち去り死滅せよ。」(*8,9,11)

2020年2~3月頃は、ネパールのコロナ感染はまだ始まったばかりであったが、世論はこの未知のウイルスに過敏に反応し緊張が高まっていた。そうした状況で、たとえユーチューブ投稿ではなくても、かりにそうした趣旨の発言が集会か何かにおいてなされていたとするなら、それがかなり危険な発言であったことは、おそらく否定できないであろう。

この3月23日のケシャブ牧師逮捕時の状況について、妻のジュヌ牧師は、こう説明している。彼女によると、その日、一人の男がポカラの牧師宅に来て、コロナに感染した妻のために祈ってほしい、とケシャブ牧師に頼んだ。そして、(お祈りが済んで?)男が出ていくと、すぐ警官が入ってきて、コロナに関するデマを流したという嫌疑でケシャブ牧師を警察署に連行していったという。この説明は、ユーチューブ投稿との関係は不明だが、説明そのものとしては具体的だ。牧師逮捕時の状況は、おそらくそのようなものであったのであろう。

2020年4月8日

ケシャブ牧師は、ポカラのカスキ郡拘置所から保釈金 5 千ルピーで保釈されたが、その直後、再逮捕（2回目）。今回の容疑は、宗教感情の毀損（刑法 156 条）と改宗教唆（刑法 158 条）。

2020年4月19日

カスキ郡裁判所が、保釈金 50 万ルピーでの保釈を決定するが、牧師は保釈金を納付できず、拘置継続。

2020年5月13日

ケシャブ牧師は保釈請求が認められ保釈されるが、直ちに警察により別の容疑で逮捕され（3回目）、そのまま身柄を遠隔地のドルパ郡警察に送られてしまった。

ドルパ郡は、ヒマラヤ奥地の高地で人口3万人余。そのうち「ドルポ」が面積の大半、人口の約半数を占めている。車道はまだ通じておらず、徒歩、馬などで3日間は移動しないと、ここには行くことが出来ない。ケシャブ牧師も、両手を後ろ手に縛られ、3日間かけてドルパに連行された。

ドルパ郡警察によると、ケシャブ牧師の逮捕理由は、牧師がドルパで住民にキリスト教パンフレットを配布し改宗を勧めた容疑。これに対し、牧師は、パンフレット配布は認めたが、改宗を勧めたことは否定した。警察側は、改宗を勧められた証人がいると主張したが、法廷には、結局、その証人は現れなかった。

2020年6月30日

ドルパ郡裁判所、ケシャブ牧師の保釈決定。保釈金 30 万ルピーで牧師保釈。

2021年11月22日

ドルパ郡裁判所、ケシャブ牧師に対し、宗教感情毀損と改宗教唆の罪で有罪判決。牧師は直ちに収監。

2021年11月30日

ドルパ郡裁判所、ケシャブ牧師に対し、禁錮 2 年、罰金 2 万ルピーの判決を言い渡す。

2021年12月19日

ドルパ郡裁判所、ケシャブ牧師の保釈を決定。



■ [カスキ郡裁判所](#)



■ [ドルパ郡裁判所](#)

【参照】

- *1 [ネパールの改宗禁止法、信教の自由を侵害する恐れ 専門家が警告, christiantoday.co.jp, 翻訳:木下優紀, 2015/07/22](#)
- *2 [ネパール: 昨年の大地震後、教会の数が著しく増加 聖公会の執事区が近況報告, christiantoday.co.jp, 記者:行本尚史, 2016/02/05](#)
- *3 [なぜネパールには、世界で最も急成長している教会があるのか, christiantoday.co.jp, 翻訳:木下優紀, 2016/02/09](#)
- *4 [ネパール、国の祝日からクリスマスを除く キリスト者側が反発, christiantoday.co.jp, 2016/04/11](#)
- *5 [ネパールで「改宗禁止法」成立、大統領が署名 キリスト教団体が懸念, christiantoday.co.jp, 翻訳:野田欣一, 2017/10/29](#)
- *6 [Police arrest pastor who said those believing in Christ are safe from coronavirus, Onlinekhabar, 2020/03/24](#)
- *7 [Pastor in Nepal Re-Arrested, Morning Star News, 2020/05/15](#)
- *8 [Religious freedom groups call for dropping of charges against pastor in Nepal, LiCAS, 2020/07/28](#)
- *9 [Nepal sentences pastor to two years for conversion, UCA News, 2021/12/01](#)
- *10 [Pastor Sentenced to Prison for Evangelism, Christian Solidarity Worldwide, 2021/12/02](#)
- *11 [Pastor in Nepal sentenced to 2 years in prison for saying prayer can heal COVID-19, by Anugrah Kumar, Christian Post, 2021/12/05](#)
- *12 [ネパールの牧師、新型コロナウイルス感染症のために祈ったことで禁錮2年, Christian Today, 2021/12/10](#)

*13 [KESHAV RAJ ACHARYA, Church in Chains, 2021/12/15](#)

*14 [Pastor in Nepal Sentenced to Prison under Proselytism Law, Morning Star News, 2021/12/28](#)

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2022/01/06 at 17:23

カテゴリー: [ネパール](#), [司法](#), [宗教](#), [人権](#)

Tagged with [キリスト教](#), [宣教](#), [布教](#), [改宗](#), [教会](#)

キリスト教牧師に有罪判決(3)

2. 牧師夫妻とその教会

ケシャブ・ラジ・アチャルヤ(33歳)さんとその妻ジュヌ・アチャルヤさんは、ともに、アバシバント・ハーベスト教会(प्रशस्त कटनी मण्डलि)の牧師。子供は、2歳と7か月の男子二人。

このアバシバント・ハーベスト教会はプロテスタント系のようなが、そのどの教派に属するかまでは、ネット情報からだけでは不明。それでも、フェイスブックなどを見ると、夫妻の教会が活発に活動し、多くの人々を集めていることは確かなようだ。

夫のケシャブ牧師はまだ33歳。妻も同年代であろう。にもかかわらず、5年前、ポカラから十数キロ東のレクナートに「アバシバント・ハーベスト教会」を開き、メンバーは400人にもなっているという。そして、ほんの数か月前にはポカラに別の教会をつくり、これもメンバーは80人に達しているという。(ケシャブ牧師投獄のためポカラの教会を閉鎖したとされるが、詳細不明。)

フェイスブックやユーチューブでみると、ケシャブ牧師はたしかに情熱的で雄弁、その魅力で多くの人々を引きつけ、夫妻の教会を急成長させてきたのであろう。

なお、ポカラ付近にも、キリスト教会は、驚くほどたくさんある。下掲地図はレクナートを含む広域だが、地図を拡大すれば表示教会数はまだ増えるし、またグーグル登録されていない小さな教会も相当数あるに違いない。ケシャブ牧師逮捕事件の背景には、こうした地域の宗教状況の大きな変化もあるとみてよいであろう。



■ [ケシャブ・アチャルヤ牧師 \(FB\)](#)



■ [ジュヌ・アチャルヤ牧師 \(FB\)](#)



■ [ポカラ付近の教会 \(グーグル検索\)](#)

[church+in+Kaski\)](#)

【参照】

* [ネパール: 昨年の大地震後、教会の数が著しく増加 聖公会の執事区が近況報告, 記者: 行本尚史, \[christiantoday.co.jp, 2016/02/05\]\(#\)](#)

* [なぜネパールには、世界で最も急成長している教会があるのか, 翻訳: 木下優紀, \[christiantoday.co.jp, 2016/02/09\]\(#\)](#)

* [Pastor in Nepal Sentenced to Prison under Proselytism Law, Morning Star News, \[2021/12/28\]\(#\)](#)

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa 編集

2022/01/04 at 14:45

カテゴリー: [ネパール](#), [宗教](#), [憲法](#), [人権](#)

Tagged with [キリスト教](#), [ポカラ](#), [教会](#), [信仰](#)